

目的 積雪、寒冷地における住居内のダニの消長およびダニアレルゲンの実態を把握すること。

方法 長野市内の供試住居10戸、居間を中心とした計15箇所、検知シート法により1995年5~11月に生ダニの実態調査を行った。使用シートは1箇所3枚、1週毎に貼り替え、回収後実体顕微鏡により計数、1枚あたりの平均値を求めた。気象データは長野地方気象台より得た。

同年11月に上記住居より2戸を選び、LVにより浮遊粉塵、ダニアレルゲン量を実測した。同時にイオン式、ファン式空気清浄機の効果についても調べた。LVは吸引速度6ltr/分で1週間連続採塵。アレルゲンは免疫化学法により、Der I 値を求めた。

結果 生ダニ数は夏期の気温と並行した消長を示し、最大値が39匹/枚、平均的には10程度であった。最大値を示した住居は、家族4人、共働きで、日中閉め切りの度合いが高いためと考えられたが、最大値を含め、全般的に首都圏のこれまでのデータと比較して、1/2~1/3程度であった。住居構造については顕著な差は見られなかった。床仕上げに関しては、夏期11週の平均値で、畳6.5、カーペット数6.0で、差はほとんどなく、板の間は1.1であった。

2例の浮遊粉塵、Der I 濃度測定結果は、以下の通りで、

B G (清浄機非使用時)	粉塵	0.07, 0.11mg/m ³	Der I	49, 84pg/m ³
イオン式清浄機		0.06, 0.08		46, 54
ファン式清浄機		0.01, 0.07		35, 46

アレルゲン濃度はこれまでの知見と類似していること、清浄効果に関しては濃度減少幅(率)でイオン式が0.1~0.4、ファン式が0.3~0.8であることが判明した。